

③ 医学統計勉強会

2023年9月13日から2023年12月20日、計8回にわたって、公衆衛生学研究科教授宮田敏先生による医学統計勉強会を開催しました。毎回、多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。勉強会の資料、動画はTARC HP (<https://teikyo-tarc.jp/internal/medical-statistics-learning/>)に掲載されています。ぜひ、ご覧ください。

09/13 基本統計量 Table 1を究めよう	11/08 比率と分割表
09/27 推定 信頼区間 仮説検定	11/29 ロジスティック回帰分析
10/11 連続変数の比較	12/06 生存時間解析
10/25 回帰分析	12/20 継時的繰り返し測定データの解析

④ 第12回TARCセミナーのご報告

2023年5月24日に第12回TARCセミナーを開催しました。こちらにもたくさんの方々にご参加をいただきました。御礼申し上げます。今回は「ランダム化比較試験における倫理審査のポイント」と題して、帝京大学医学系研究倫理委員会委員長の久保孝義先生に介入研究、中でも重要なRCTにおける倫理審査のポイント、必要性、科学性、対象者関係、実現可能性についてご説明いただきました。実際に審査、承認された研究計画書をもとに、どのように考え、計画し、研究計画書に記載をする必要があるかを具体的に示していただきました。こちらはLMS公開講座、およびTARC HP (<https://teikyo-tarc.jp/internal/medical-statistics-learning/>)に公開しています。介入研究の計画時は、ぜひこちらの動画を確認し、審査のポイントを踏まえて計画書を作成してください。(必要に応じTARCのコンサルテーションもご検討ください。HPより受け付けております。 <https://teikyo-tarc.jp/internal/consulting/>)

支援研究中間報告

研究課題 表現型別の喘息増悪因子の同定と長期予後の解析を目指した多施設共同前向きコホート研究 (ERCAコホート研究)

この10年間に、重症喘息に対して5種類の抗体製剤が使用可能となり、コントロールは大幅に改善してきました。また、喘息病態はType 2喘息と、Type 2 low喘息に大別される概念が確立し、層別化医療が重要となっています。しかし、Type 2 low喘息に対する抗体製剤の有効性は限定的で、病態にも不明な点が多く残されています。

そこで本研究は、喘息の表現型別に、長期経過、難治化予測マーカーを検討し、CT画像と組み合わせた病態解明を目指しています。2017年から独立行政法人環境再生保全機構 (ERCA)の研究資金をいただき、帝京大学を主幹施設とする全国7大学が参加し、650症例からなる前向きコホート研究を継続しています。学内では、小林このみ医師をはじめとした呼吸器・アレルギー学のメンバーが総出で、データ収集や解析を行っています。TARCには、2022年からEDCの構築と、データ管理にお力をいただいています。これまでの主な成果として、1. 増悪は抗体製剤の普及によってCOVID-19蔓延前から蔓延中は順調に減少したが、この1年は逆に増加に転じたこと、2. クラスター解析によって表現型別に重症群を同定し、各群の増悪と関連するバイオマーカーは異なること、を明らかにし、9題の学会発表を行いました。

今後は、長期予後と関連するバイオマーカーを活用し、気道閉塞が固定する前に先制的に介入する診療体系の確立や、同定された増悪関連バイオマーカーを標的とした、他疾患承認薬のドラッグリポジショニングによる治療の確立などを模索したいと考えています。

医療環境における激動の時代の中、一貫して喘息の経過を追跡してきた本コホートは、国内でも注目を集める存在となっています。今後もTARCのお力を借りながら、QoL改善に資する知見を発信していきたいと思っております。今後ともご支援のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



内科学講座呼吸器・アレルギー学

長瀬 洋之 先生

TARC Vol. 17



帝京大学
臨床研究センター
Teikyo Academic Research Center

発行日 2023.12
発行元 帝京大学臨床研究センター
発行人 寺本 民生

〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL 03-3964-1211 (代) 内線45062

e-mail tarc-info@med.teikyo-u.ac.jp
URL <https://teikyo-tarc.jp>